

災害時組織対応セミナーを実施しました (2021/7/4)

テーマ：災害対策マニュアル、事業継続計画（BCP）、DMAS、新型コロナ対策

場 所：東北大学災害科学国際研究所（宮城県仙台市）

2021年7月4日（日）、宮城県仙台市の東北大学災害科学国際研究所において、文部科学省補助金事業「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」災害時組織対応セミナーが実施され、プログラム履修生他 17 名（医療従事者、行政・消防職員など）が研修を受講しました。実習コーディネーターを務める佐々木宏之客員研究員（災害医学研究部門災害医療国際協力学分野）が、会場責任者として運営と事業継続計画（BCP）に関する講義を行いました。

災害時に病院や自治体、消防は遅滞なく初動対応に取り組む必要があり、各組織で災害時の初動マニュアルを整備しています。しかし、各組織の初動マニュアルには災害への取り組みにおける濃淡や記載内容の過不足もみられます。本セミナーでは参加者が所属する各組織のマニュアルを持ち寄り、職種を超えた視点でお互いの初動マニュアルの課題を抽出しました。また、マニュアルをベースにした訓練の企画立案に関する机上演習を行いました。佐々木研究員は、BCP の考え方、策定方法、BCP の維持管理に関する講義を行い、また前日に静岡県熱海市で発生した土石流災害を例にハザードマップを用いたリスク評価の演習を行いました。

今回の研修には、日本災害医学会学生部会（DMAS）東北支部に所属し災害医療を学ぶ保健医療系学生 8 名も参加し、運営補助にあたりました。現在、東北 DMAS には医学科、看護学科、救命救急学科など 88 名の学生が所属し、実災害時にボランティアとして災害医療活動支援を実践するなど、未来の災害対応に期待できる戦力となっています。

昨年度に引き続いて、新型コロナウイルス感染症蔓延を鑑み、受講定員を大幅に削減して研修を実施しました。履修生の間隔を広くとる、換気の励行、手指消毒、マスク着用、大声を発しない会話など、感染対策に万全の注意を払いつつ研修を実施しました。



研修スペースを広く使って



所属する病院の初動マニュアルについて課題を抽出する



訓練の企画立案演習
頻発する水害への対応訓練案を発表



運営補助にあたった
DMAS メンバーのユニフォーム

文責：佐々木宏之（災害医療国際協力学分野）